

## 今週のメニュー

[トピックス](#)

塩ビものづくりコンテスト2011

- 応募頂いた製品の一次審査で11点が選ばれました -

塩ビものづくりコンテスト実行委員会事務局

[随想](#)

チュニジア旅行記(1) - スピード時代 -

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

[編集後記](#)

## トピックス

塩ビものづくりコンテスト2011

- 応募頂いた製品の一次審査で11点が選ばれました -

塩ビものづくりコンテスト実行委員会事務局

今回の「塩ビものづくりコンテスト2011」は一般の方からの「作品応募」と塩ビ製品を扱っている企業・グループからの「製品応募」の両方が審査の対象になります。それぞれの一次審査を経て、最終審査で作品と製品の全体から入賞が決まります。

作品はアイデアや企画案を審査し、応募者の意図を組み込んで軟質塩ビ素材を用いてプロトタイプを試作するため、製作期間を考慮して早めに一次審査を終えています。既に、選ばれた作品12点について、主催者の会員会社が東京・名古屋・大阪の地域毎に分担して、最終審査に向けて試作を行っています。そこでは素材の提供や加工方法の新たな工夫が必要なものもあり、新たなコラボレーションが生まれています。

一方、エントリーされた製品が日本ビニル工業会の事務局に届けられ、158点の製品が集まりました。作品と異なり、全てが形を持つ製品や試作品であり、梱包されている段ボール箱や巻物で、事務所や地下の倉庫が満杯になりました。審査の前日に、事務局が審査会場の5階会議室へ運び、丁寧にひとつひとつ製品を机の上に広げて、一次審査の当日を迎えました。



審査会場

いよいよ6月4日に大竹審査委員長をはじめ4名の審査員が集まり、作品の一次審査と同じように、審査が始まりました。応募製品には、既に販売されている製品もありましたが、この機会に新たに作られたものもあり、日頃見たこともない製品が並び、事務局としても興味のあるものが多かったと感じています。また、中間素材である軟質塩ビシートも対象になったことから、いろいろな機能が付与された製品が応募されていました。

10時から始まり、午後3時前に漸く11点の製品が選ばれました。更に、製品の用途を明確にすれば面白いと思われる3点の製品も参考製品として選ばれました。1社で5点

以上の製品を応募された会社の製品も選ばれたことから、全社一丸で頑張られた結果に結び付いたことや、このコンテストを機会に、組合として共同して作り上げたものも含まれ、事務局としても良かったと感じています。

最終審査は6月中旬に行いますが、審査結果は7月6日に東京竹橋の「如水会館」で行われる表彰式で、選ばれた方を招いて発表されます。また、入賞された作品・製品とともに、惜しくも落選された優秀作品についても、応募者の了解を得た上で、表彰式翌日の7月7日から9日まで、六本木のA X I SビルB 1 Fのギャラリーで展示会を行います。是非、一度、ご覧頂き、今回のコンテストの様子を感じて頂きたいと、関係者一同、願っています。(了)

## 随想

### チュニジア旅行記(1) - スピード時代 -

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

これまで、「[チュニジアの若者たち](#)」、「[チュニジア・ナウ](#)」と2回にわたって、チュニジアの「ジャスミン革命」の背景や、最近の状況をご紹介いたしました。

今回より、昨年9月にチュニジアを訪問した時の様子に、最近の情報を交えて旅行記をお送りいたします。

「ジャスミン革命」以降、街や市民生活はかなり平穏な状態に戻りつつあるチュニジア。

この“革命”という言葉、チュニジアでは、今回の運動は国家を変えるものであったが本当に“革命”と呼べるものであったのか。実際には“政変”と呼ぶべきものではないのかという意見が強くなっているようです。

日本のニュースなどでは「ジャスミン革命」がエジプト、リビア、シリアをはじめ中国にも広がった市民運動のもとになったように報道されていますが、チュニジアの人に聞くと「そおなの？」と驚きます。「私たちは自分の国を良くしようと思ってやったこと。世界に影響を与えるなんて考えたこともなかった」。革命以前は小さな観光立国であり、あまり世界の表舞台に出ることがなかったチュニジア、どのような国に変わっていくのか、世界各国が注目する国となりました。

テレビや新聞などでチュニジアの地図を何回も目にした方もおられるでしょうが、チュニジアは中近東にある国だと思われている方も多いようです。チュニジアは地中海に面した北アフリカにあります。長靴のような形をしたイタリアの地中海を挟んだつま先部分。西側のアルジェリア、東側のリビアに挟まれた位置にあります。

地中海沿岸は青い海に白い建物が並んでおり、日本人が思い浮かべる典型的なヨーロッパのリゾート地です。漁業も盛んで、食卓には豊富な魚介類



[クリックで拡大](#)

が並びます。魚介類と言えば、チュニジアの人は缶詰の「シーチキン」が大好き。世界一の「シーチキン」消費国です。東日本大震災でチュニジアから送られてきた援助物資も「シーチキン」の缶詰でした。



地中海から内陸部に進むにつれ、「岩漠」「土漠」とだんだん砂が多くなり、「サハラ砂漠」に到達します。

チュニジアのサハラ砂漠では「スターウォーズ」や「イングリッシュ・ペーシエント」など多くの映画撮影も行われています。高倉健、桜田淳子さんなどが出演し、1988年に制作された「海へ See You」というパリ・ダカールラリーを舞台にした日本映画もチュニジアで撮影されました。

サハラ砂漠の砂は非常に細かく、荷物をビニル袋に入れ、きちんと梱包していてもどこからか砂が入ってきます。水中カメラのように水も入らないように設計されたカメラの中にも砂が。どうやって入り込むのか、不思議でなりません。もちろん、人間の体の中にも入ってきます (^\_^;

サハラ砂漠から日本に帰っても、2～3週間は、耳を掃除する綿棒や鼻をかむと砂が出てきてビックリすることがあります。

20年ほど前は、さすがに首都のチュニス市内でラクダを見ることはありませんでしたが、ちょっと郊外に足を延ばせばラクダは井戸から水を汲み上げるとき、農耕をするとき、小麦粉を挽くときの動力源として、砂漠で人を乗せ、荷物を運ぶ交通・輸送機関として、ミルクを供給し、食肉として食料供給源として、生活の様々な場面で見ることができました。



**いまま残る観光客用ラクダ  
乗りませんか？**

しかし、それは遠い昔のこと。動力はモーターやエンジンに代わり、砂漠での交通・輸送機関はバスやランドクルーザーに。近場の移動はサンドバギーに。荷物の輸送はトラックに変わり、ラクダは食用としてもほとんど利用されることもなくなりつつあります。

砂漠の中を目だけを出し、青い布に全身をくるんだトゥアレグ族の若者に付き添われのんびり歩くラクダの商隊というのは過去のもの。最近のトゥアレグ族の若者はT-シャツ姿にサングラスをかけ、サンドバギーにまたがり砂煙を上げてサハラ砂漠を駆け抜けていきます。

サンドバギーにはGPSナビゲーションや無線も装備されているため、現在地を見失うこともありません。お年寄りはいこれまでの経験と勘で現在の場所を割り出しますが、現在の若者にはそれは無理。GPSナビゲーションが壊れればもうお手上げ。砂漠地帯には専門の救助隊の基地があり、位置を見失った若者からの「助けて～」という無線や携帯電話で連絡が来ると、その電波を逆探知して、救助隊が出動する体制が整っています。

観光客を乗せて砂漠を遊覧していたラクダの数もめっきり減り、いまではサンドバギーに乗っての砂漠遊覧が一般的になりました。(つづく)

## 編集後記

チュニジアはなじみがない国でしたが、スターウォーズ大好き人間の私としてはサハラ砂漠で映画が撮影されたとか聞くと急に身近に感じられるようになりました。世界一の「シーチキン」消費国とか、震災での援助物資も「シーチキン」が送られてきたとは知りませんでした。

チュニジア国内で文明の利器が広がるスピードは速いようで、砂漠で GPS 付きのバギーとは面白いですね。私は東京に来て1年半ですが、町中や出先で時々道に迷います。最近はやりたいものが欲しいと思っており、災害時にも役に立つのではと適当なのを探しているところです。(ももっち)

## 関連リンク

[メールマガジンバックナンバー](#)

[メールマガジン登録](#)

[メールマガジン解除](#)



編集責任者 事務局長 東 幸次

東京都中央区新川 1-4-1

TEL 03-3297-5601

FAX 03-3297-5783

URL <http://www.vec.gr.jp>

E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)

---

---